

科目名 科目名 動物資源生産学特論(一) (2単位)

担当者氏名 増子孝義、横濱道成

◆学習・教育目標

動物資源生産を扱う専門領域は広く、農学、畜産学、自然生態学に渡っている。動物の多様性の保全を含めた生物生産は総合科学と位置付けられ、新しい動物資源の開発や多様な環境に配慮した動物資源生産力の拡大、さらに動物資源機能の新しい応用などにかかわる教育が必要である。本特論では、まず、既存の動物資源の生産にかかわる背景や現状など基礎的な知識を習得する。

◆取り扱う領域(キーワードで記載)

動物資源学

世界の家畜

動物生産

生物生産

◆授業の進行等について(単位制度に基づく授業の進行予定・内容)

回数	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1-7回	国内、国外の家畜種と特性(横濱道成 7回)	日本鶏種とその特性、在来家畜と地域特性、中国・東南アジアの家畜資源(哺乳類、家禽類)、ヨーロッパの家畜の特性、アフリカの家畜種と活用例、アメリカ・オーストラリアの家畜種と特性	世界の家畜やそれらに関連する野生種を写真資料を基本として、動物資源の意義を学ぶ。
8-15回	飼料生産と家畜飼養(増子孝義 8回)	飼料生産の現状、穀類価格の高騰、飼料自給向上に研究成果、家畜別飼養(牛、豚)、家畜別飼養(鶏、特用家畜)、畜産物の自給向上	飼料生産の現状と課題を学ぶ。

◆教科書及び資料(授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

講義ごとに関連資料を配布する。

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

アニマル・ジェネティクス/岡田育穂編著/養賢堂(1995)

動物遺伝育種学辞典/動物遺伝育種シンポジウム組織委員会編/畜産技術協会(2001)

◆評価の方法(レポート・小テスト・定期試験・課題等のウェイト)

レポートと出席で評価する。

◆その他受講上の注意事項
